アートカード使用報告書

使　　用　　者	機　関（学校名）：那珂市立芳野小学校 職・氏名：講師　川又明子
使　用　期　間	平成２９年５月　１日（月）～平成２９年８月３１日（木　）
使用のねらい	・図画工作や美術の鑑賞活動において，アートカードを利用した授業を展開し児童が造形作品の良さや面白さに気付き，感性や自主性を育む授業づくりをする。 ・市の教育研究会の中でアートカードを使った授業実践を発表する。
活　　動　　名	アートカードでかるた遊び
実施方法（活動の流れ）別添可	別添

感　想　等：

アートカードを使ったアートゲームをやることで，知らず知らずのうちに，作品の細部を観察したり，作品からの印象を言葉で再構成できる。参加者のコミュニケーション能力が活性化し，美術鑑賞を超えて人格的な総合教育ができるようになったと思う

使用風景（写真等）※当館ホームページに使用してもよい写真

複製画とともに使用した参考資料：
（ワークシートなどがあれば添付願います。）

※当館のホームページに掲載させていただく場合がございます。その際は，ご連絡いたします。

※ホームページの「教育・研究」→「アートカードの貸出」→「アートカード使用報告書」のデータファイルがありますので，入力して，ご提出ください。

茨城県図画工作・美術教育研究部研究調査委員会　授業実践研究報告（平成２９年８月）№５

研究テーマ	共感しあう鑑賞活動をとおして，造形作品のよさや面白さに気付き，感性や自主性を育む授業づくり 小･中（小学５年生，中学２年生）におけるアートかるたによる授業実践を通して

那珂市立芳野小学校　講師　川又　明子

Ⅰ　研究テーマについて

緑桜学園は那珂三中，芳野小，木崎小から構成されている。本地域の子どもたちは自然豊かな土地で心優しく素直に育っている。穏やかな反面，与えられた課題には取り組めるが教師の指示を待って行動することも多く，自ら表現する力が乏しいところがある。主体性や自主性を育んでいくことが課題である。

本研究では，「アートカード」（茨城県近代美術館）を活用した鑑賞活動に焦点を当てる。アートカードでのかるた遊びの読み札を考える活動をとおして造形作品の面白さを主体的に見つけ，互いに共感し合うよさや，子どもたちが主体的に鑑賞する喜びに出会わせたい。

さらに，本研究では，小中一貫のよさを生かすために，同一教材で題材を構成するようにしていく。小・中で同じ教材を学ぶことをとおして，中学校での見方や感じ方の深まりも自覚できるようにしていきたい。学区の子どもたちが，心優しく，豊かな心をもち自分らしい表現方法を身に付けられるよう，教職員が連携し，同一教材を活用して，目指す児童生徒の姿に近づけるよう本主題を設定した。

Ⅱ　研究の実際

１　題材名　「アートカードでかるた遊び」

２　題材の目標

〇作品のよさや表現のくふうについて主体的に見たり感じ取ろうとする。
（関心・意欲・態度）

〇作品に対する個々の思いや考えを，他者に意欲的に説明したり，共感したりしようとする。（関心・意欲・態度）

〇感性や想像力を働かせながら，対象の見方や感じ方を広げることができる。
（鑑賞の能力）

３　題材について

(1)　児童（生徒）の実態

（%）

質問項目	選択肢	芳野小（45名）	木崎小(17名)	那珂三中（70名）
	好き	６２	５３	４２
	まあまあ好き	３８	４１	４０
	あまり好きではない	０	６	７
	好きではない	０	０	１
	色	７８	２９	５３
	形	５６	５３	４３
	奥行き	６０	１８	３６

	組み合わせ	６０	５３	４６
	動き	５３	１２	１０
	イメージ	７１	３５	３４
	思う	４７	７０	５３
	まあまあ思う	４０	１２	３６
	あまり思わない	９	１２	１１
	思わない	４	６	０

小学生も中学生も，友達の絵（作品）を見るのが好きである。中学生においては，作品を見たり感じたりすることに個人差が見られるが，いろいろな角度から見たり，感じたりしていることがアンケートからわかる。その中でも，芳野小の児童は色とイメージを軸に，木崎小の児童は形と組み合わせを主にイメージを大切にして，作品をとらえていることがわかる。また，そのように感じ取ったことを自分の作品にも生かしたいという意欲的な面もこの結果から理解できる。

ベン＝シャーンの「赤い階段」を鑑賞した際，芳野小では「足が無い人が階段を上っていくので，戦争が終わったあとだろう」や「ガラガラと壁がくずれる音が聞こえる」など作品全体から伝わってくるイメージを表現していた。木崎小では「戦争で家を壊されて，大変な思いをしている人がいる。」「階段と古い家の形がすごく細かく書かれている。」など絵を見て気が付くことを表現していた。また，「絶望感を感じる。」「残酷な絵だ。」「怖い感じがする。」などのイメージを素直に感じていた。中学生では，震災を覚えている年代らしく，「震災や津波の後のようだ。」という声が多数聞かれ，「不思議なところがある。」「悲しみに満ちていて，暗い。」「寂しい，はかない，むなしいイメージ。」など，色や形を感情と結びつける姿があり，イメージを言葉にする力が養われていた。

(2)　題材観

本題材では，アートカードの多様な使い方が児童や生徒の発達段階に応じた指導に適していると考えた。小学校で学んだことが，９年間でこの地域・学校で，図画工作・美術科で目指す「心豊かに自主性を育てる」子ども像に近づけるよう小中で連携して育てていきたい。

(3)　指導観

本題材は，学習指導要領の内容Ａ表現（１）及び内容Ｂ鑑賞（１）を受けて設定されており，特にＢ鑑賞の「イ感じたことや思ったことを話したり，友人と話し合ったりするなどして，いろいろな表し方や材料による感じの違いなどが分かること」を軸とした内容の活動である。アートカードで作品について自分なりに感じた音を表現し話し合うことで，友達の感じ方のよさや思いに共感させたい。音以外のイメージをふくらませる活動を位置づけるようにすることで，主体的に作品のよさを味わえるようにしていきたい。

４　題材の評価基準

関心・意欲・態度	鑑賞の能力

○感じたことを楽しく話し合おうとする。	○作品の内容について，形や色・イメージなどをもとに言葉にすることができる。

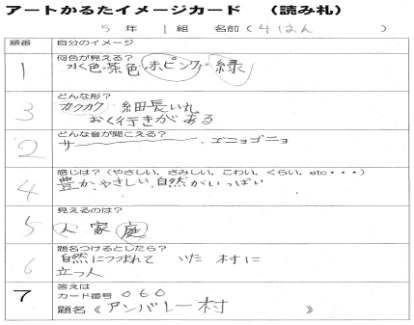
5　指導と評価の計画（３時間扱い）

時　間	学習内容・活動	評価基準・【評価方法】
	・アートカードとの出会い 「どんな音が聞こえるかな」 「先生とアートかるたをやろう」	・感じたことを楽しく話し合うことができたか。 ・感じたことや気付いたことでカードを取ることができたか。 関・意・態
	・アートかるたの読み札作り 「グループで１枚読み札を作ろう」 「好きなカードを選んで読み札を作ろう」	・グループで読み札を１枚作ることで，いろいろな感じ方を多様な言葉で表わしたり知ることができたか。 ・自分なりの言葉で読み札を作ることができたか。 関・意・態
第２次 （本時）	・グループでアートかるた遊び	・アートカードの作品に興味をもち，友達と一緒にかるたを楽しむことができる。 関・意・態 ・カードのイメージを自分なりの言葉で友達に伝えることができる。 鑑

6　指導の実際（小学校３時間，中学校２時間扱い）

時　間	学習内容・活動	目指す子どもの姿
第１次	①　アートカードとの出会い アートカードって何だろう。 ○グループになり，それぞれのアートカードを見て，自分の聞こえる音を伝える。各グループで３回行う。 ○自分が伝えた音に友達が共感してくれたら，カードをもらう。 ②　アートカードで読み札作り アートカードを使って，かるたの読み札を作ろう。 ○先生とかるた遊びをする。 （教師）　カードの絵から，緑と白の色が見えます。 （児童）　緑の木と白い雲あるから，これだと思い	・聞こえた音，感じたことを楽しく話し合うことができる。 ・感じたことや気付いたことでカードを取ることができる。 ・教師の読み札を聞いて，アートカードを選び，理由を説明することができる。

<table>
<tr>
<td></td>
<td>ます。
（教師）　違います。次は，さらさら，もくもくという音が聞こえてきます。
（児童）　この絵からは，緑の木が風に揺れる音と雲が動いている音が聞こえてくるから。
（児童）　わたしは，水の流れるさらさら，雲のもくもくの音が聞こえるからです。

○グループで読み札を１枚作り，かるた遊びをする。（中学校は省略）
（教師）　今度はグループで読み札を作ってみましょう。どの順番で読むかで，すぐに絵が見つかってしまいます。よく相談して読む順番を決めましょう。
 
アートかるたイメージカード　（読み札）
５年　１組　名前（ｓはん　）
順番 | 自分のイメージ
1 | 何色が見える？ 水色 茶色 ピンク 緑
3 | どんな形？ ガックク 糸田長いれ おく行きがある
2 | どんな音が聞こえる？ サ――、ズニョゴニョ
4 | 感じは？（やさしい、さみしい、こわい、くらい、etc・・・） 豊かやさしい自然がいっぱい
5 | 見えるのは？ 人 家 鹿
6 | 題名つけるとしたら？ 自然につつまれて　いた　村に 立つ人
7 | 答えは カード番号 ０６０ 題名《アンバレー村》
○自分の好きなカードを選んで読み札を作る。
○アートカードを使った感想を発表する。
（児童）　友達の発表を聞いて，イメージが広がったように思います。</td>
<td>

・グループで読み札を作ることで，自分が感じたことを言葉で表わしたり，友達が感じたことを気付いたりすることができる。

・自分が感じたことを言葉で表し，読み札を作ることができる。</td>
</tr>
<tr>
<td>第２次</td>
<td>③　アートカードでかるた遊び
グループでアートかるた遊びをやろう。
○かるたのやり方を説明する。
・読む順番を決める。
・選んだカードの理由を説明する。
・読み手は正解か不正解かを知らせる。
正解だったら，カードを渡す。
・作った読み札が終わるまで繰り返す。
（児童）　わたしもそれだと思ったのに，違うのか。
（児童）ほんとだ。人がいる！気が付かなかったよ。
○本時の活動を振り返る。
（児童）　遠くに青い空が広がっているから，赤い階段を上ると明るい未来が待っている感じ</td>
<td>・アートカードの作品に興味をもち，友達と一緒にかるたを楽しむことができる。
・カードのイメージを自分の言葉で友達に伝えることができる。

・ベン＝シャーンの「赤い階段」をもう一度見て，感想を書くことができる。</td>
</tr>
</table>

	がする。	

Ⅲ　研究の成果と課題

１　成果

小学生も中学生も，かるた遊びを通して，知らず知らずのうちに，作品の細部を観察したり，作品からの印象を言葉や音で再構成することを身に付けることができた。読み札作りでは，自分のイメージを書く欄を項目ごとに分け，色，形，音，感じ方などを詳しく考えることで，＜共通事項＞もおさえることができ，中学生は形や色彩，材料，光などの性質だけでなく，それらがもたらす感情を理解することまでできるようになった。アートカードゲームは，自分の感じたイメージを言葉で伝えているうちに，作品の美しさや面白さに気付き，友達と共感し合うことでお互いを理解し，積極的にコミュニケーション能力を高められ，さらに美術鑑賞を超えて，人格的な総合教育ができる素晴らしい題材である。

２　課題

小学生では，表面的な具体物からの音や色，形，動きなど実際見えていることだけを表現している児童が多かったが，中学生は，見たカードからイメージを膨らませて，背景に聞こえてくる音楽や，匂い，感情まで表現できる生徒が多かった。小学生でも，中学生のようにイメージを膨らませて表現できる児童も出てきたので，最初に取ったアンケート「赤い階段」を最後に見せて，改めて感じたことを書く活動を位置づける時に，最初に表面的なことしか読み取れなかったり，何も書けなかったりした児童，生徒が，自分なりに感じたことを，表面的なことだけでなく形や色を内面と結び付けながら鑑賞できるようにしていきたい。今後の課題として，小学校でこの授業を経験した子どもたちに，もう一度中学校で同じ教材と出会わせ，小学校との感じ方や深まりの違いを自覚できるようにしていきたい。